

平成 26 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	10	05	07	0401	新渡戸記念館企画展示事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-5	芸術文化の振興			
	施策	2	先人の顕彰			
目的	新渡戸家及び新渡戸家ゆかりの先人とその業績を顕彰する。					
対象	一般市民及び県内外の観光客					
意図	江戸時代、花巻の発展に尽くし、国際人・新渡戸稲造を生んだ新渡戸家を紹介・顕彰し、市民には花巻の歴史に触れただくとも、併せて観光客には花巻市を知ってもらう機会とすることを目的。					
事業概要						
○特別展の開催…常設展とは別に、年間を通して特別展を4回開催						
○教育普及事業						
①小中学校や公民館活動など地域の各種活動の機会をとらえて出張講座や移動研修を開催						
②地域に開かれた記念館を目指し、地元の方々と郷土芸能大会や開館記念館行事を開催						
③高校生を対象とした「新渡戸教室」を開催						
④記念館をもっと知ってもらうため「新渡戸記念館サポーター」を設立し、会員を募集						
市民参画の有無 [対象外]						
市民協働の形態		共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定		
		後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 行事開催数	回		計画	12	10	10
			実績	10	10	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(計画)
① 入館者数	人		目標	26,100	26,100	25,000
			実績	16,415	13,113	
② 生涯学習に利用した小中学校数/市内小中学校数	%		目標	20.0	25.0	25.0
			実績	20.0	26.7	
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
【H26成果指標の設定根拠】		
○入館者数の推移 H23年度 15,489人(43人/日) H24年度 20,186人(56人/日) H25年度(見込) 16,500人(46人/日) ※ここ数年の現状では、1日当りの利用人数は50人前後であり、目標値と大きな乖離があったが、これを1日当り70人を目指し目標として掲げた。		
○生涯学習に利用した小中学校数は例年6校前後であるが、H25年度と同様目標としては8校(95%)とする		
目的妥当性	公共関与の妥当性	新渡戸氏の顕彰と、新渡戸氏に関わる先人の業績を紹介することは、市民が郷土の歴史に触れ地元に対する愛着や誇りを醸成することにつながることも、また県内外からの観光客に対しても花巻市をアピールすることにもなり、市の業務とするのが妥当。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある	
有効性	<input type="radio"/> 向上余地がある	開館してから20年あまり経つが、県内外はもとより市民の間においても十分浸透しているとは言えないので、展示内容や周知の工夫、他館との連携などにより、向上する余地はあると思われる。
	向上余地がない	
	<input type="radio"/> どちらもある	
効率性	事業費・人件費の削減余地	正職員は1名のみで、館長と学芸員は非常勤という3名体制である。このような体制であるが休館日は年末年始のみであり、これ以上の削減は困難である。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
公平性	<input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
	受益と負担の適正化余地	市内外を問わず入館者に対しては原則、同一料金を徴収しており公平である。
	受益機会の見直し余地がある	
<input type="radio"/> 適正である		
総合評価		
・花巻の成り立ちは、言うまでもなく一朝一夕に成立したのではなく、過去から続く先人の生業や業績の積み重ねによって築かれてきているものであり、教科書だけでは知ることができない郷土の偉人やその業績を紹介することは極めて重要なことである。		
・当館で実施しているアンケートによると、知名度はないものの見学した結果、かなり肯定的に評価が多い結果となっている。一方、市内でも未だに一度も行ったことがないという人も数多く見受けられるため、特別展を工夫したり、市内外に向けて様々な機会を活用して継続してアピールしていく必要がある。		

平成 26 年度 事業説明資料

【 事後評価 】

担当部署 部名 まちづくり部 課名 新渡戸記念館 担当係長 小原 弘道 内線 31-2120

(単位：千円)

会計	款	項	目	事業コード	事業名
一般	10	05	07	0401	新渡戸記念館企画展示事業

単位：千円

		25年度 決算額(A)	26年度 決算額(B)	27年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,024	954	954	△ 70
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,024	954	954	△ 70

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部経営方針における目標
文化の香り高いまちをつくります。

事業開始の背景・経緯
江戸時代、花巻の地域開発に大きな足跡を残した新渡戸一族の顕彰と同家に関わりのあった花巻の先人たちの業績を広く紹介すため、平成3年10月、新渡戸家ゆかりの地に開館した。

事業概要
○特別展の開催…常設展とは別に、年間を通して特別展を4回開催

- 教育普及事業
- ①小中学校や公民館活動など地域の各種活動の機会をとらえて出張講座や移動研修を開催
 - ②地域に開かれた記念館を目指し、地元の方々と郷土芸能大会や開館記念館行事を開催
 - ③高校生を対象とした「新渡戸教室」を開催
 - ④記念館をもっと知ってもらうため「新渡戸記念館サポーター」を設立し、会員を募集

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

- ・冬期間における入館者数の確保について
- ・当記念館の認知度をもっと上げることの必要性

《事業手法の詳細》

●年間事業計画

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
企画展示	特別展「花巻再発見」					特別展「新渡戸氏と信仰」			共同企画展「新渡戸忠之丞」			収蔵資料展「花巻の春・ひな人形展」
教育普及・イベント	会員(サポーター)募集											
	特別公演					開館記念						

～新渡戸氏と花巻～

- 平成25年度事業 ⇒ ○平成26年度事業
- ・共同企画展を含み特別展を年4回開催
 - ・春に地元の園児や神楽出演の「特別公演」
 - ・秋に開館記念行事に併せ、小学生対象の「新渡戸教室」を開催
 - ・共同企画展を含み特別展を4回開催
 - ・イベント事業(春の特別公演、秋の開館行事は、高校生対象の「新渡戸教室」を開催
 - ・教育普及事業(新渡戸記念館会員の募集)

◆平成26年度の主な事業

1. 特別展 I 「歩いてみませんか、再発見、歴史の街・花巻」(H26.4.20～8.31)
○内容
・新渡戸記念館で紹介している、新渡戸家に関する史跡や石碑を地図と写真で紹介。(展示会終了後も、地図と写真はエントランスに掲げ、市内観光・探索の呼び水を期待)
2. 記念館サポーター会員の募集(新規・教育普及事業)
目的: 市民に当館の認知と花巻と新渡戸家の関わりを周知させるため、会員(サポーター)を募集する。
特典: ①登録いただいた会員には、当記念館企画展の案内やパンフレットを送付する。
②新渡戸稲造に関する全国の情報をお知らせする。
③新渡戸基金で年4回発行している機関紙「太平洋の橋」を無料送付する。
④展示や運営に関わる細やかな意見をいただくとともに、当館への勧誘やPRの役目も担っていただく。

事業費			内容
節	H26	H25	
8節	80	85	イベント出演・講師謝礼
11節	290	450	チラシ・リーフレット印刷
12節	61	102	資料送付代
13節	329	387	パネル製作委託
計	954	1,024	